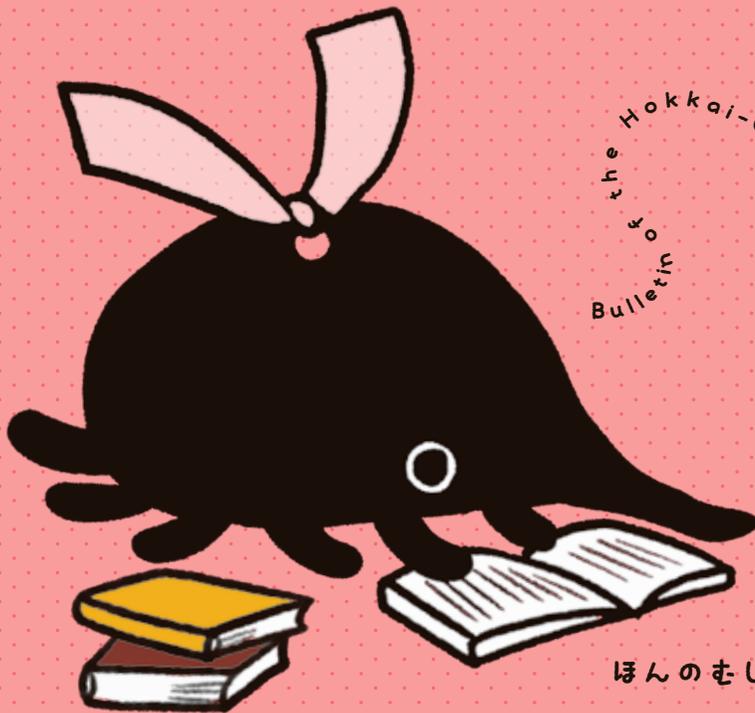


# 図書館だより



Bulletin of the Hokkai-Gakuen University Library

ほんのむし

# 2

vol.38

北海学園大学附属図書館報  
第38巻2号(通巻214号)

2016-7-1

〈特集①〉**私家版 文学作品の読み方** 法学部講師 松浦 希生

〈特集②〉**隣国と向き合う社会へ** 経済学部教授 水野 邦彦

**おすすめ図書** 経済学部講師 宇土 至心 / 図書館職員 川田 裕之

**アクティブ・エリア 誕生!**

図書館ホームページが変わりました / 編集後記 / 図書館からのお知らせ

# 文学作品の読み方

法学部講師

松浦和宏



## 純

文学作品の読み方って、よく分かりますよね？「読み方なんて人それぞれ」とか「そもそも『読み方なんて存在しない』」と思う人もいると思います。もちろん、それもごもっとも。ただ、私たちが生きて行く上で役立つ『読み方』も存在します。そこで、私がアメリカ文学作品を読む際に援用している方法をここではご紹介いたします。それは「こんな風に純文学を読むと、私たちの人生に役立つかも？」と言う作品読解の裏ワザの話です。「堅苦しいテーマだな」と思う人が大半だと思いますが、全部読んでも数分しかかかりませんから、よろしければ先行投資のつもりで読んでみてください。

さて、いきなり話がズレますが、私は授業で「『縁』を大切にしてください」と言っています。この「縁」とは、他の人や組織との出会いとつながりのことです。私たちの人生では、不思議な出会いが実に沢山あります（私の人生も、不思議な出会いだらけです）。「不思議」な出会いですから、想定外な展開や場所において、それは偶発的に発生します。そして、そのような機会が、私たちの人生を左右します。あとから思い起こしてみても、「あの人やあの会社との出会いが、自分にとってのターニングポイント

だったんだ」と感じるような巡り合わせーそんな「縁」は、誰にでもいつか必ず訪れます。

この話、どうもピンと来ませんか？「縁」は、色々な人や場との深い関係性を持つことを経て、初めて実感できるようになります。ですから、「縁」の大切さに気付くのは、皆さんがもう少し年をとってからかもしれません。人生、楽ありや苦もありません。株の格言で言うところの山高ければ、谷深いです。何をしても上手くいってハッピーな時もあるれば、何をしても上手くいかない辛い時もあります。そんな中を生き抜くには、努力や才能と同じくらい「出会い」も大切なファクターだと私は思います。自己と外部とのやり取りの中で、「あ、別のアプローチで問題に取り組みればいいのか」とか「自分の考え方のココが間違っていたんだ」という新しい発想が生まれます。そんな「気付き」は、私たちが行き止まりに追い詰められた時、そこから自力で抜け出すための力になります。

前置きが長くなってしまいました。なぜこのような話を最初にしたのかと言うと、読者と文学作品の出会いも、この「縁」と同じだからです。作品を読解することは、今まで自分には分からなかったことに光を当ててくれる。要するに、作品を読むことで、新たな何かが見え

るようになる（こともある）。幸運にも相性の良い作品と出会えた人は、そのようなキッカケを手に入れることができるはずで。

それでは、そんな出会いを引き起こしてくれる読み方とは、どんな方法なのでしょう？それは、作家が一番困っていることに照準を合わせて読む」という方法です。作家が、苦勞して物語を書く。どうしても書かずにはいられない。そのモチベーションは何か？何が作家を駆り立てるのか？それはきつと、作家が抱えている何か大きな問題や悩みです。強迫観念的に長い文章を書いてしまう。そんな根源的大問題が作品には潜んでいる。それを汲み取るうとする読み方を通して、私たちが作品ははじめて知り合い同士になれます。

しかしながら、作品中に潜んでいる作家の悩みは、実に分かりづらい。というか、作品を書いている作家自身も、自分たちの苦悩が何なのかを完璧には把握できていません。もし、多くの人に知って欲しいメッセージや悩みがあるなら、「私は困っています。助けてください！」とシンプルに書けば良いだけです。でも、そうはしないで、わざわざ物語を生み出す。それは、自分でもうまく説明できない問題や苦悩を抱えた作家が、物語という「枠」を使って、内なる問題を可視

化(見えるようにする)させようと頑張っている、ということだと思ふのです。であれば、読者も頑張つて、それを作品中から読み取る必要があります。

私たちが本当に困っていることも、これと同じ構造です。つまり、私たちも、自分自身のことをわかっていないのです。例えば「早起きできない」とか「英語が苦手だ」という問題なら、自分でも認識できている。自覚しているのなら、それを修正すればいいだけです。でも、本当に困っていることや悩んでいることは、自分では案外気づかない(だから直すことができずに、本当に困ってしまうんですけど)。「いつも何だかうまくいかない」ってこと、誰にでもありませんよね?本当に気づいていない。もしくは、見たくなくて、何とでも目を背けようとする。結果的に、その悩みにずっと付きまとわれる—この手の悩みは、蓋をして忘れたふりをして、悩みが自分から蓋を開けて出てきてしまいうから、永久的に私たちの所に回帰します。

私たちも作家たちも、同じように認識圏外の悩みを抱えている。この共通項に気づけば、あとは簡単です。作家が必死に表現しようとしている悩みを読み解こうとすることで、私たちが自分自身について考えることができます。つまり、作品を読むことを通して、作者と一緒に考え、そして悩むことができる。波長が合う作家の悩みは、私たちの悩みでもあります。私たち読者と作家(〇〇作品)は「同じ土俵上」ってことです。作家から何か高尚なことを教えて頂くわけでもなければ(だって、彼らだって分かっているのだから)、私たちが読者が彼らの悩みを理

解してあげるワケでもない(だって、私たちが分かっていないのだから)。この行為の中では、作者と読者は、極めて対等な関係です。だから、相手の苦悩を読み取ろうとすることで、私たち自身が抱えている内なる苦悩も浮き彫りになります。

その次にやるのは、謎解きです。じゃあどうやって作者は、自分自身の苦悩と付き合おうとしたのか、もしくは乗り越えようとしたのか?、という部分を読み解くのです。作者だってその悩みを表現するのに苦労したのだから、この作業は簡単ではありません。誰にでも実践できるような「処方箋」を作中からすぐに見出すのは難しいかもしれません。でも、作品を読み解くことで、私たちにとって参考になるヒントが見えてくるはずですよ。そのアイデアや解決策を実際に自分にも適用できるのか?それはあなた次第ですが、きっと自分にも気づきやきっかけをもたらしてくれる何かを得ることができると思います。

このように、文学作品を読むというのは、物凄く私的な行為です。それは、作品と読者の個人的関係性の上に成り立つものです。よって、私たちが作品読解を通して得た「考え方」をその他大勢の人にも拡大して適応させるのは、難しいことが多いです。例えるなら、あなたにとって有効な薬が、私にとっても同じくらい効果的だとは限らないのと同じです。その点を見落として、全ての文学作品が紋切り型のメッセージを読者に発信しているとして断定する読み方は、「やってはいけない」読み方です。なぜなら、そのような読み方は、作品を窮屈な型にはめて矮小

化してしまうリスクを孕んでいるからです。読者主導で作品の一部を切り取ってしまう読み方—そこには、本来読者と作品の間にあるべき対等な関係と双方方向性は存在しません。むしろ、そのような読み方に沿う作品があるということも否定はできません。ただ、私たちがだって、一方的にしか会話できない人に(それも、自分のことしか話さない、もしくは、逆に相手に質問するだけで、自分のことは一切話さない人には特に)、自分の悩みを打ち明けたくはないですよね?それと同じことです。

限られた範囲内でのみ有効。究極的には自分だけに効果的。そう聞くと、なんだかツマラナイものに聞こえてしまうでしょうか?より多くの人に影響を与えられるようなメッセージの方が価値のあるものだと思いますか?でも、ちょっと待ってください。もし、幸運にも自分と波長の合う作品を見つかることができれば、その出会いはかけがえのないものになります。そして、その私的な関係から生み出された「考え方」は、自分(たち)だけのものです。それは「他の人にどう思われるかな?」という足かせになるような意識から離れることを助けられるし、「自分の考え方を持つて主体的に生きたい」と考える人たちが生きていくための土台となります。つまり、文学作品とのお付き合いを通して、私たちが生きていくための軸とかコアな考え方を手に入れることができる。それって、とても大切なことではないでしょうか。ということで、皆さんも時間があつたら何か純文学作品を読んでみてください。運が良ければ、みなさんにも不思議な「縁」があるかもしれませんよ。

# 隣国と向き合う社会へ



経済学部教授 水野邦彦（水野のくにひこ）

## 欧

米文化を取りこむことに躍起になっていた近代日本は、もつとも近い朝鮮半島とどれだけ向き合ってきただろうか。朝鮮半島とその社会や文化を朝鮮と総称していえば、日本は朝鮮を植民地支配していた時代に、朝鮮と日本との相違や朝鮮の独自性をみとめずに朝鮮を日本のなかに組みこみ、そのうえで日本人でない朝鮮人（韓国人）にたいし蔑視と差別を重ねてきた。この姿勢は民主化されたはずの敗戦後日本においてどれほど変わっただろうか。

このような問題意識に即して一九四五年八月以降の銘記すべき事柄をいくつか断片的にしるせば、まず広島・長崎の軍需工場などに投入されていた朝鮮人労働者はとうぜん被爆した。広島での爆死者二万余人のうち約四万人が朝鮮人、ほかに被爆して生き延びた朝鮮人は数多いが、その人々は日本人でないという理由で抛置されるが多かった。一九五〇年に勃発した朝鮮戦争は日本人に、戦争で儲けること、戦争特需によって日本の景気が回復することを意識させた。敗戦後の米国占領下で日本の民族独立が主張されたさいも、日本人の戦争責任意識は稀薄であり、日本に住みついてきた朝鮮人の存在は日本人の意識にほとんどのぼらなかつた。「日

本人としての自己形成において戦前世代からの肉体的・社会的諸遺産の相続を放棄することは不可能であるのだから、戦争責任についてのみ相続を放棄することもまた不可能である」という家永三郎の論理は、こうした意識の欠如を懸念したものといえる。

今日の在日朝鮮人（在日韓国人）には、一九一〇年の韓国併合以降、土地調査事業その他によって土地を奪われ、食い詰めて日本に渡らざるをえなかつた朝鮮人たちの子孫が多いが旗田巍の言葉を借りれば、在日朝鮮人は「疎外され差別される人間として生きている」。この疎外や差別のなかで在日朝鮮人は不可避的に鬱積した感情を蓄積させており、日本の社会、日本人の意識は、かれらに暴発的行動をおこさせるようなものを多分に含んでいる」。暴発的行動の端的なあらわれが小松川事件（一九五八年）であり寸又峯事件（一九六八年）であったが、小松川事件について鈴木道彦は「李珍宇という人物を作り出したのが日本社会である」と論じている。小松川事件第二審判決では被告人に「社会の一員としての自己の責任」の欠如が指摘されたが、日本社会で差別される人間性を否定されつづけてきた在日朝鮮人少年に「社会の一員としての自己の責任を要求するのは酷だ」という大岡昇平のまっとうな批判すら、

日本に広く浸透することはなかつた。「朝鮮問題を理解することは日本人にとつて日本問題を理解することになるのに近い」と書いたのは中野重治である。朝鮮問題や朝鮮人問題といわれるものの本質がじつは日本問題ないし日本人問題にほかならないことが、すでに一九五九年に論じられていたのである。これは合州国には黒人問題など存在しない、あるのは白人問題だ（Richard Wright）という言葉を受けたサルトルが、反ユダヤ主義はユダヤ人の問題ではない、私たちの問題なのだと言った問題意識と呼応するであろう。

朝鮮に目を閉ざし、社会的弱者や少数派の人々を見えなくしたうえで成り立っている戦後日本社会は、本質的に歪みを内蔵している。朝鮮について「無知で怠慢なことが差別を支えてきた」と歴史家の姜徳相はいうが、無知と怠慢と無関心とは互いに助長し、それらは差別を支えるのみならず、戦後日本社会の歪みを増幅させる。朝鮮にたいする忌避意識がひとつのイデオロギ―（観念を構造化する形態）となってきた日本において、朝鮮とまともに向き合うことは依然として私たちの課題である。「韓国、そして、朝鮮を、私たちは避けて通ることはできない」という小田実の言葉は、いまなお示唆的である。



# おすすめ図書

Recommended Books

## リスクー神々への反逆(上下)

ピーター・バーンスタイン 著、青山護 訳  
(※日経ビジネス人文庫・2001)

経済学部 講師  
宇土 至心

未来がどうなるかは誰にもわかりません。自分の人生や日本経済、明日どうなるのでさえ。未来は人知を超えた世界であり、神のみぞ知る世界です。しかし、人類は長い時間をかけて、また様々な方法を模索しながら、未来を予測しようと試みてきました。バーンスタインの著書『リスク』は、未来を掌握しようと挑戦し続けた人類の物語です。

経済学では、未来のよくわからないものは二つに分けられます。一つは、どうなるかはわからないが、どれくらい確率で起きるかはおわかっていられるものであり、リスクとよばれます。もう一つは、どうなるかも、確率もわからないものであり、不確実性とよばれます。もし起きる確率がある程度計算でき、不確実性をリスクにできれば、人類は神の領域に一步近づけることができます。

そのための方法として、バーンスタインによれば、人類は相反する二つの方法を用いてきました。一つは過去の観察に基づいて数学的に分析する方法であり、もう一つは主観的な信念を用いる方法です。例えば将来の株価を予測する場合に、過去の株価データに頼るのか、それとも超人的な閃きに頼るのか。科学が芸術か。

現代の私たちはひどく高度に複雑なシステムの中に生きています。数学や統計学に依拠した予測手法の確立と発展のおかげで、未来の予測とそれに基づく意思決定が可能となり、人類は神の世界を自らのものにしたつあります。しかし、数学は単なる道具であり、過去は未来の完全な代替物にはなりません。予測が高度になるほど、未知に晒される度合いも高くなるかもしれません。

※1998年に日本経済新聞社より刊行されたものの文庫本版

## 飼い喰い 三匹の豚とわたし

内澤旬子 著 (岩波書店・2012)

図書館職員  
かわ た ひろ ゆき  
川田 裕之

みなさん、肉好きですか？私は好きです。とはいえ若くないので毎日毎食というわけではありませんが、特に豚肉が好きですねー。スーパーでパックになって販売している肉が、どのような過程を経て売られているか何となく想像はできますが、実際のところを詳しく調べる人は少ないのではないのでしょうか。

著者は、以前世界の屠畜事情について執筆するため約十年間国内外の屠畜場を取材し、本を上梓しました。しかし、屠畜場に来るまでの家畜について、具体的なことは何も知らなかった、と。そこで自らの手で軒先小屋を作って豚を飼い、自分が何を感じるのか、豚がどう反応するのか、そして屠畜してもらい、その肉を食すのはどうということなのかを体験し、日本の養豚事情も含め綴ったのが本書です。

苦勞して豚小屋を併設するための住居(廃屋)を借り、何とか修繕して三匹の仔豚を飼います。この豚達が、ノンビリ屋だったり威張りん坊だったりクールだったり、それぞれに個性があり読み進めるうちにとっても可愛く思えます。これは三匹の豚に対する著者の愛情が文章からも伺えるからなのでしょう。

畜産に関して素人の著者がどのように飼育していくか、また出荷を迎え屠畜場ではどうだったのかは本書を読んでいただくとして、日々の糧を得る、という生きるために必須のことについて、久しぶりに考えさせられました。また、本書には著者の挿絵も掲載されているのですが、これだけでも上手い。もっとイラストの分量が多くてもいいのになあ。

生産者は、家畜に愛情を込め健やかに育て出荷(屠殺)し金銭を得る、そして我々はそれを食べる。たまにこうしたことをジックリと考えてみるのはいかがでしょうか。

Active Area

## 概要説明

### 注意事項

※原則2名以上の利用  
※アクティブ・エリア内の食事はご遠慮ください。但し蓋付飲み物は持ち込みOKです。  
※グループ学習以外の用途でアクティブ・エリアを使用するのはご遠慮ください。  
※図書館の本を延滞している場合は「L1・L2」の機器類を利用できません。  
※卒業生及び学外者の方は利用できません。  
※座席数に限りがあるため、教室やゼミ室としての恒常的な使用はお断りします。  
※許可なく無断で撮影するのはご遠慮ください。  
やむを得ない理由がある場合、事前にサポートデスク職員にご相談ください。

### 貸出物品

■ タブレットパソコン (Surface) ■ ノートパソコン  
■ ホワイトボード (大・中・小) ■ レーザーポインター & スライドページ送り用リモコン  
■ 録画機材 ■ 延長コード ■ 車椅子用ポータブルスロープ ■ ひざかけ他

### 利用時間

月～金…………… 9時30分～19時30分  
土・長期休業期… 9時30分～16時30分

# アクティブ・エリア誕生！

図書館4階が学生主体のグループ学習(ディスカッション・プレゼンテーション等)を行うことができるアクティブ・エリアとして生まれ変わりました。  
グループ学習の場所探しに困っていた学生の皆さん、必見です!!!



### 無線LAN配備

(個人持ち込みPCは  
別途大学生協にて  
利用手続きが必要)

申請  
対象



Active Area

# 各ルーム紹介



## AL-1 (Active Learning Room 1)

- 最大 24 名収容可
- プロジェクタ利用可

申請  
不要



## GS-1 (Group Study Room 1)

- 最大 19 名収容可
- デスクトップPC配備

申請  
対象



## AL-2 (Active Learning Room 2)

- 最大12名収容可
- プロジェクタ利用可
- 貸切予約可

申請  
不要



## サポートデスク

- 機器貸出・返却
- AL-1・2の予約・利用受付
- 機器トラブル対応



## GS-2 (Group Study Room 2)

- 最大 20 名収容可
- 大型ホワイトボード配備

# 図書館 ホームページが 変わりました

## 図書館

ホームページの下部に図書館  
利用お助けツールができました。

例えば、「あのデータベースの使い方が?」、  
「OPACの使い方は?」、「論文検索の方法は?」  
等、様々な疑問解決につながるヘルプツールです。  
オリエンテーションに参加できなかった方・参加  
したけど内容を忘れてしまった方もこのお助け  
ツールを使えば、図書館利用方法について

理解できます。

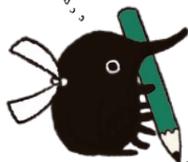
是非お試しあれ!!!



図書館利用に  
関する資料が  
満載!!!

見たい資料の  
アイコンを  
クリックする  
だけでOK!!!

## 編集後記



入学シーズンも過ぎ、新しい環境に慣れ、大事な仲間ができた頃かと思えます。私は学生時代に大事な仲間とともにゼミ発表やスピーチコンテストなどを通して、互いに切磋琢磨し、充実した大学生活を送ることができました。みなさんもゼミや講義で出会った大事な仲間とゼミ発表や研修発表をすることがあるかと思えます。そんな時は是非、図書館のアクティブ・エリアをお試しあれ!!! 図書館のアクティブ・エリアはグループ発表の準備をする場所として最適な場所です。大事な仲間とアクティブ・エリアの機能を最大限

に有効活用し、充実した学習時間を過ごしてもらえると嬉しいです。

最後になりますが、今回原稿執筆に際し、教職員の方に大変お世話になりました。この場を借りて、御礼申し上げます。

## 図書館からのお知らせ

### 夏季休業期間の長期貸出

期間：7月23日(土)～9月13日(火)  
長期貸出返却日：9月29日(木)

### 定期試験のための日曜特別開館(豊平校舎)

7月24日(日)、7月31日(日)  
時間：10:00～16:00

### 全学休業に伴う休館(豊平・工学部校舎)

8月13日(土)～8月16日(火)

### 夏季休業期間の工学部図書室開館時間変更

期間：8月8日(月)～9月17日(土)  
月・水・金曜日…9:00～19:30  
火・木曜日 ……9:00～17:00  
土曜日 ……9:00～12:50

### 蔵書点検に伴う閉館(豊平・工学部校舎)

期間：9月14日(水)～9月16日(金)

皆さまからの、本冊子に対するご感想を下記のアドレス宛にお寄せください。今後の内容充実のために活用させていただきます。  
なお、お寄せいただいたご意見・ご感想についての回答はいたしませんので、あらかじめご了承ください。

▶▶▶ lib@tyhr.hokkai-s-u.ac.jp